

平成 28 年 9 月 30 日提出

東北福祉大学平成 27 年度外部評価委員会報告（平成 27 年 12 月 24 日開催）

外部評価委委員（長） 東北学院大学経済学部教授 阿部 重樹
外部評価委委員 同志社大学社会学部教授 黒木 保博
外部評価委委員 株式会社進研アド取締役 白石 洋司

1. はじめに

平成 27 年度外部評価委員会は、平成 27 年 12 月 24 日（水）に東北福祉大学管理棟 3 階において、14 時～16 時の時間帯で実施された。

外部評価委員会には外部評価委員として阿部重樹東北学院大学経済学部教授、黒木保博同志社大学社会学部教授、白石洋司株式会社進研アド取締役の 3 名が、また東北福祉大学から渡辺信英副学長、阿部裕二教務部長、中林稔晴企画部長の 3 名が出席し、開催された。

第 1 回目となる平成 27 年度外部評価委員会では、資料として事前に送付されていた東北福祉大学平成 27 年度点検評価報告書をもとに、外部評価委員 3 名で評価を行い、それを踏まえ外部評価委員会としての所見を集約し、それらを以下に示されるような所見として東北福祉大学の出席者に伝え、外部評価委員との意見交換を行った。

2. 講評（所見）

(1) 報告書の内容をめぐって

- ① 大学評価報告書としては、外形的にも、内容的にも過不足なく作成されており、標準的な水準を保つものとなっていると判断される。
- ② しかしその一方で標準的、総花的な評価と記載内容となっていることから、今後は、外部評価委員会として特徴的、先駆的な取組みがなされていると判断されたリエゾンゼミ、AO 入試、地域貢献等東北福祉大学の評価できる点をもっと積極的に示すよう配慮されることも必要であろうと考える。また、文部科学省も注目している大学であることから、東北福祉大学の特色のある取組が他の大学の参考となるような報告書になるよう、他の手段による外部への発信も含め、一層の改善に向けての取組みを期待したい。
- ③ 章構成の中で一つの章において学部と大学院を記述しているが、外部評価委員会としては財務関係を除いて、学部と大学院を分けて、それぞれ別個に章構成を行い、記述した方が良いのではないかと考える。これは大学院に関する記述がいささか少ないと感じられたことにもよっている。記載内容の少なさについては、通信教育についても同様の指摘がなされる。
- ④ 大学院については、近年社会人に向けたスキルアップ教育についての重要性が

高まりつつあることから、大学院の在り方についての外部評価委員会の活用が選択肢の一つとして今後検討されることもあろう。

- ⑤ 例えば、報告書の p.87～88 にあるシラバスについての記載に見られる学部間でのバラツキやまた p.66～67 の全学に係る箇所ではナンバリングについて記述されているが、総合マネジメント学部ではこれが履修モデルとして示されている等、学部間での、また全学に係る内容の記載と学部についての部分の間に統一性がとられていないところがある。改善が図られるよう努められたい。

(2) 今後の外部評価委員会のあり方をめぐって

今回は初めての外部評価委員会の開催ということもあって東北福祉大学点検評価報告書をもとにした書類上での評価であったが、今後は今回の外部評価の過程において外部評価委員が一致して積極的な側面において関心をもった以下のようなテーマについて、外部評価委員会において立体的・重層的な評価を行うことを提案したい。東北福祉大学においても、このような外部評価委員会のあり方についても積極的に検討されること望みたい。

テーマについてであるが、①AO入試：AO入試を受験し、合格した学生について、入学後の成績が良い、就職状況も良いとの現状を踏まえて、外部評価委員会で学生、教務、就職等関係部局への聞き取り調査を実施して評価してみたい。②地域連携：東北福祉大学の地域連携活動は非常に高く評価できることから、地域連携ポリシーや活動内容をHP、受験案内等に掲載して、受験生にアピールすることも考えられるであろう。外部評価委員会での地域連携の支援部局へのヒアリングや学生・地域住民等への直接のヒアリングを実施したいと考える。③リエゾンゼミ：ユニークな取り組みで成果が上がっていると評価出来ることから、外部評価委員会での実際の授業の視察、担当教職員や学生への聞き取り、入試広報との連携等の多面的な評価を実施したい。④資格取得率が高いことを踏まえて、外部評価委員会での学生や指導にあたられている教職員への聞き取り調査等を実施したい。⑤キャンパスアメニティーについても、ユニバーサルデザイン等の記述もあるので、外部評価委員会として現場視察や学生への聞き取り調査をしたい。以上である。